

報道関係者 各位

2022. 3. 11  
<配信枚数3枚>

■ シンポジウムのご案内 ■  
**温暖化防止に向けたバイオ炭活用と Jクレジット制度**

日時： 3月18日(金) 10:00~16:30

形式： オンライン、対面 (大阪いばらきキャンパス)

立命館大学カーボンマイナスプロジェクトは、シンポジウム「温暖化防止に向けたバイオ炭活用と Jクレジット制度」を3月18日(金)に開催いたします。

本プロジェクトは、間伐材などの有機資源を用いた炭素削減の手段と活用を通して、脱炭素社会実現のためのプラットフォームの生成およびエコシステムの形成を促し、農家、企業や消費者等を含めた多様な事業者・個人の共創と共生を目指しているプロジェクトです。立命館大学が共創パートナーとして参加している2025年大阪・関西万博「TEAM EXPO 2025」プログラムの「共創チャレンジ」に登録されているプロジェクトのひとつです。

本シンポジウムでは、産官学における多様な識者・実践者をお招きし、世界の脱炭素や研究の動向、国の政策、Jクレジット等の制度や、バイオ炭の規格、そして環境経営を実践する企業の取り組みなどをご説明します。関連領域の理解と実践への手がかりとなれば幸いです。

## 記

日時： 2022年3月18日(金) 10:00~16:30

形式： 【オンライン】Zoom 【対面】大阪いばらきキャンパス B棟3階コロキウム

対象： どなたでもご参加いただけます。

参加費： 無料

申込方法： 以下のURLの「3.18 シンポジウム」からお申し込みください。

<https://www.ritsumeikan-carbon-minus.org/>

主催： 立命館大学カーボンマイナスプロジェクト (TEAM EXPO 2025 共創チャレンジ)

共催： 立命館大学 (TEAM EXPO 2025 共創パートナー)・日本バイオ炭普及会

後援： 公益社団法人2025年日本国際博覧会協会、日本炭化学会、  
一般社団法人日本クルベジ協会

※詳細は別紙をご覧ください。

以上

本リリースの配布先： 京都大学記者クラブ、大阪科学・大学記者クラブ

## ●取材・内容についてのお問い合わせ先

立命館大学研究部 OIC リサーチオフィス 担当: 國府田

TEL. 072-665-2570 Email. oicro@st.ritsumeikan.ac.jp

別紙

■タイムスケジュール ※敬称略

<午前の部 10:00-12:00>

○代表挨拶

立命館大学 副学長 徳田 昭雄

日本バイオ炭普及会 会長／九州大学大学院農学研究院環境農学部門教授 凌 祥之  
農水省大臣官房審議官(技術・環境) 川合 豊彦

○基調講演

10:20-10:50 大臣官房環境バイオマス政策課地球環境対策室長 久保 牧衣子  
「みどりの食料システム戦略」

10:50-11:20 北海道大学 農学部 名誉教授 大崎 満  
「森林共循環システムによる自然資本の価値化 -COP26 の報告を含めて-」

11:20-11:50 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)上級研究員 岸本 文紅  
「バイオ炭の世界の動向」

11:50-12:20 秋田県立大学 高度木材研究所 教授 栗本 康司  
「JBA バイオ炭規格と IPCC 規格」

<午後の部 13:00-16:20>

○講演

13:10-13:40 みずほりサーチ&テクノロジーズ株式会社  
環境エネルギー第2部 環境エネルギー政策チーム 桂 貴暉  
「Jクレジットの仕組み」

13:40-14:10 立命館大学 政策科学部 准教授 中野 勝行  
「JクレジットにおけるLCA」

14:10-14:40 一般社団法人日本クルベジ協会  
Jクレジット制度プロジェクト 運営責任者 小澤 史弘  
「バイオ炭 Jクレジット申請方法について」  
日本バイオ炭普及会 品質部門長 沖森 泰行  
「J-クレジットプロジェクトにおけるバイオ炭の品質証明について」

○講演、企業の取り組み・パネルディスカッション

14:50-15:05 立命館大学 経営学部／同大学院 経営学研究科 教授 依田 祐一  
「カーボンマイナス・プラットフォームとビジネス・エコシステム」

15:05-15:20 株式会社長大 事業推進本部 国内営業企画部 課長  
株式会社南部町バイオマスエナジー 竹下 光雄  
「バイオ炭の農地施用と農業の取り組み」

15:20-15:35 株式会社アサギリ 代表取締役 蓑 威頼

15:35-15:50 オイシックス・ラ・大地株式会社  
経営企画本部 新規事業開発準備室 グリーンPJリーダー 東海林 園子

15:50-16:05 株式会社UPDATER(旧:みんな電力株式会社)  
事業本部 パワーイノベーション部 宇野 雄登

16:05-16:20 パネルディスカッション (竹下、蓑、東海林、宇野:司会 依田)

○締めの挨拶

立命館大学カーボンマイナスプロジェクト 研究室代表 柴田 晃

## ■カーボンマイナスとは

カーボンマイナスとは、地球上の CO<sub>2</sub> 総量を減少に導くことを指します。「カーボンネガティブ」と呼ぶこともあり、CO<sub>2</sub> の排出量よりも吸収量を増やすことで、全体として CO<sub>2</sub> の総量を減少させることが可能になります。森林等の植物を増やすことは、一時的に二酸化炭素を吸収し、炭素を固定し、増加した大気中の炭素総量を減少に導くことができます。しかし、植物は腐敗したり、燃えるなどして分解されると、再び二酸化炭素を排出するため、安定的に地表上の炭素総量を減少に導くことが困難です。

カーボンマイナスの方法はさまざまですが、本プロジェクトでは、特に「バイオ炭 (CO<sub>2</sub> を吸収した植物を炭にしたもの)」に注目したカーボンマイナスの実現を目指しています。CO<sub>2</sub> を吸収した植物を炭 (バイオ炭) にすると、再び二酸化炭素を排出することを防げるため、結果として、二酸化炭素の削減できます。これを「炭素貯留」と呼びます。

似たような言葉として「カーボンニュートラル」がありますが、これは、温室効果ガスの排出を実質的にゼロにすることを意味します。「実質的」とは、温室効果ガスの排出量から吸収量と除去量を差し引いた合計をゼロにするという意味です。つまり、現段階で先ほど挙げたような国と地域が目指しているのが、カーボンニュートラルを指します。

## ■J クレジットとは

省エネルギー機器の導入や森林経営などの取り組みによる、CO<sub>2</sub> などの温室効果ガスの排出削減や吸収量を「クレジット」として国が認証する制度。中小企業・自治体等の省エネ・低炭素投資等を促進し、クレジット活用による国内での資金循環を促すことで、環境と経済の両立を目指しています。

## ■立命館大学カーボンマイナスプロジェクトとは (<https://www.ritsumeikan-carbon-minus.org/>)

本プロジェクトは、バイオ炭による炭素貯留のカーボンマイナスのプラットフォームとビジネス・エコシステムの形成を促し、製炭業者の方々や農家の方々だけではなく、消費者、企業等を含めた多様な事業者・個人の共創・共生を目指しています。

化石燃料などで掘り出された二酸化炭素を再び地下に戻すことで、大気中の二酸化炭素の総量を減らすための試みです。現在はバイオ炭 (炭化したバイオマス) を用いて、植物が光合成によって蓄えた二酸化炭素を地中に戻す活動について、取材・広報を行っています。

なお、本プロジェクトは、農林水産省の農林水産研究推進事業委託研究のひとつで、脱炭素・環境対応プロジェクト「農林水産分野における炭素吸収源対策技術の開発」のアウトリーチ活動の一環です。